

## 平成25年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年5月15日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社SmartEbook.com

コード番号 2330 URL <http://www.smartebook.com>

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 安嶋 幸直

問合せ先責任者 (役職名) 取締役財務部長 (氏名) 飯田 潔 TEL 092-263-5921

四半期報告書提出予定日 平成25年5月15日 配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無： 有

四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成25年12月期第1四半期の連結業績（平成25年1月1日～平成25年3月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年12月期第1四半期	78	△48.7	△257	—	△220	—	△222	—
24年12月期第1四半期	152	△59.7	△216	—	△171	—	△172	—

(注) 包括利益 25年12月期第1四半期 △220百万円 (-%) 24年12月期第1四半期 △172百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年12月期第1四半期	△101.54	—
24年12月期第1四半期	△78.75	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年12月期第1四半期	3,380	3,187	94.3	1,452.61
24年12月期	3,631	3,408	93.8	1,553.25

(参考) 自己資本 25年12月期第1四半期 3,187百万円 24年12月期 3,408百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年12月期	—	—	—	—	—
25年12月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

### 3. 平成25年12月期の連結業績予想（平成25年1月1日～平成25年12月31日）

当社グループが展開しているコンテンツ事業及びファンディング事業は、市場環境の変化が激しく、不確定要素が大きいため合理的な予想値の算定を行うことは困難であり、現段階では適切な予想の開示ができないと判断したため、記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料P.3「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	25年12月期 1 Q	2,194,270株	24年12月期	2,194,270株
② 期末自己株式数	25年12月期 1 Q	－株	24年12月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	25年12月期 1 Q	2,194,270株	24年12月期 1 Q	2,194,270株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料における将来に関する記述は、発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。平成25年12月期の配当予想額につきましては、現時点で業績予想について適切な開示が困難であると判断し記載していないことから、配当につきましても未定とさせていただきます。予想額の開示が可能となった時点で速やかに開示いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	2
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	3
4. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	7
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	7
(5) セグメント情報等 .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、欧州債務問題や日中関係など先行き不透明な状況の中、新政権による経済対策や金融政策等の期待感から円安、株高基調に転じ、景気回復に向けて明るい兆しが見られています。

当社を取り巻く事業環境は、米国の調査会社IDCの調査によりますと、2013年第1四半期にデバイスメーカーが世界中で出荷したスマートフォンの台数は2億1,620万台となり、世界全体における総出荷台数の51.6%で、2013年の国別スマートフォン出荷台数は、中国が3億120万台で最も多く、米国が1億3,750万台でこれに続き、英国の3,550万台、日本の3,520万台、ブラジルの2,890万台、インドの2,780万台となり、2017年には、中国、米国に次いでインドが3位になり、ブラジル、英国、日本の順になると予測されています。

このような状況の中、当第1四半期連結累計期間における当社グループは、将来に向けて成長力が有望な市場での現地通信キャリア向けのプラットフォームの提供とリテラーとの協業、ライセンス獲得を更に推し進めるため、メキシコ、ブラジル、ベトナム、インドネシアに拠点を設けて事業展開することが不可欠と判断し、子会社の設立を推進いたしました。

また、中国においては、流通チャネルへの配信強化、大手出版社とのライセンス契約、ネット書店最大手の「中国図書網」との協業契約を進めるとともに、e-book共有サービス「Book-mate」については、日本・英国に続き、米国での特許を取得いたしました。

しかしながら、国内において、自社ビューワーを使つてのメジャータイトル配信の許諾調整に時間を要したため、当第1四半期中でのプロモーション投資が出来なかったこと、海外については、新規のサービス開始時期が第2四半期以降に変更になったことから、売上は、減収となりました。利益面につきましては、主にプロモーション費用は減少となりましたが、売上高の減少により、営業損失の改善には至りませんでした。

この結果、当社グループの連結業績につきましては、売上高78,082千円（前年同期比48.7%減）、営業損失257,582千円（前年同期は営業損失216,587千円）、経常損失220,704千円（前年同期は経常損失171,397千円）、四半期純損失222,797千円（前年同期は四半期純損失172,809千円）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### ①コンテンツ事業

コンテンツ事業では主に、中国の人気ドラマや、ネット小説、中国ノーベル文学賞作家等のグローバルデジタル配信や、中国ネット書店最大手の「中国図書網」と電子書籍サービス「BookchinaEbookstore」の展開に向けて、進めてまいりましたが、当第1四半期中でのプロモーション投資ができなかったことや、サービス開始時期が予定よりも変更になったことから、売上は減少いたしました。

この結果、当該事業の売上高は71,883千円（前年同期比48.6%減）、セグメント損失は175,006千円（前年同期はセグメント損失125,698千円）となりました。

#### ②その他の事業

その他の事業では、請求収納代行業務の取次、金融商品の売買を中心に事業展開いたしました。

この結果、売上高は6,198千円（前年同期比49.8%減）、セグメント損失は1,809千円（前年同期はセグメント損失6,762千円）となりました。

### (2) 連結財政状態に関する定性的情報

#### ①総資産

当第1四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べて250,989千円減少し3,380,742千円となりました。主な要因と致しましては、損失計上となったことや未払金等の支払等により、現金及び預金が331,172千円減少したこと等によりますが、一方積極的にソフトウェア開発を行ったことにより無形固定資産が増加いたしました。

#### ②負債

当第1四半期連結会計期間末における負債は前連結会計年度末に比べて30,184千円減少し193,287千円となりました。主な要因と致しましては、支払により未払金や未払法人税等が減少したこと等によるものであります。

#### ③純資産

当第1四半期連結会計期間末における純資産は前連結会計年度末に比べて220,804千円減少し3,187,455千円となりました。要因と致しましては、四半期純損失の計上によるものであります。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成25年1月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。これによる損益に与える影響額は軽微であります。

## 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、当第1四半期連結累計期間において、売上高が前年同期と比較して著しく減少しており、継続的な営業損失の発生及び営業キャッシュ・フローのマイナスを計上しております。これにより、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しておりますが、当第1四半期連結会計期間末における現金及び預金の残高は2,570,187千円であり、財務面に支障はなく、継続企業の前提に関する重要な不確実性はないものと判断しております。

当社グループは、当該重要事象等を解消、又は改善するため、以下の対応策を講じて参ります。

- ①電子書籍に関する自社ビューワー及び自社プラットフォームの開発・改善を促進し、海外ローカルエリアの書籍タイトル配信許諾を確保し、これらを各国の通信キャリアやSNSサイト、リテラー等へ提供することによる大手との協業獲得に注力し、BtoBtoCビジネスモデルのグローバル展開を進めます。
- ②日本・英国・米国にて特許を取得した電子書籍共有サービス「Book-mate」を活用し、ソーシャルリーディングを通じた新たな電子書籍体験を提供し、ユーザー層の拡大と競合との差別化を図ります。
- ③許諾を受けたタイトルのデジタルコンテンツ化から選定・配信までに関わる運用業務について順次自動化・合理化を推進し、期間短縮とコスト低減を図ります。
- ④顧客基盤を持つ協業先とのBtoBtoCビジネスに注力するとともに自社サイト「MOBI-BOOK」を多チャンネルで展開し、国内BtoCビジネスの強化を図ります。

以上の対応策を推進することにより、国内外における安定収益基盤の確保と原価及び販管費の一層の削減、営業損益の改善を図っていく所存です。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,901,360	2,570,187
売掛金	317,411	306,795
コンテンツ資産	83,865	85,428
その他	223,821	258,528
貸倒引当金	△230,938	△229,433
流動資産合計	3,295,520	2,991,506
固定資産		
有形固定資産	14,270	13,161
無形固定資産	253,537	316,536
投資その他の資産		
投資有価証券	24,226	24,251
その他	44,177	35,286
投資その他の資産合計	68,403	59,537
固定資産合計	336,211	389,235
資産合計	3,631,731	3,380,742
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	35,826	42,686
未払金	136,991	118,209
リース債務	4,284	4,284
未払法人税等	13,847	2,639
契約解除損失引当金	5,106	—
その他	14,391	16,695
流動負債合計	210,447	184,515
固定負債		
リース債務	5,599	4,528
その他	7,424	4,243
固定負債合計	13,024	8,771
負債合計	223,471	193,287
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,141,876	4,141,876
資本剰余金	3,104,327	3,104,327
利益剰余金	△3,772,414	△3,995,211
株主資本合計	3,473,790	3,250,992
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△65,530	△63,584
その他の包括利益累計額合計	△65,530	△63,584
少数株主持分	—	47
純資産合計	3,408,260	3,187,455
負債純資産合計	3,631,731	3,380,742

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日)
売上高	152,080	78,082
売上原価	84,215	83,785
売上総利益又は売上総損失(△)	67,865	△5,702
販売費及び一般管理費	284,452	251,880
営業損失(△)	△216,587	△257,582
営業外収益		
受取利息	1,008	3,273
為替差益	—	30,316
地金売却益	51,709	10,897
その他	5,337	1,381
営業外収益合計	58,055	45,869
営業外費用		
地金評価損	—	8,952
デリバティブ評価損	11,619	—
その他	1,245	38
営業外費用合計	12,865	8,990
経常損失(△)	△171,397	△220,704
特別損失		
固定資産除却損	—	946
特別損失合計	—	946
税金等調整前四半期純損失(△)	△171,397	△221,650
法人税、住民税及び事業税	1,412	1,162
法人税等調整額	—	0
法人税等合計	1,412	1,162
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△172,809	△222,813
少数株主損失(△)	—	△15
四半期純損失(△)	△172,809	△222,797

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△172,809	△222,813
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	—	1,945
その他の包括利益合計	—	1,945
四半期包括利益	△172,809	△220,868
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△172,809	△220,852
少数株主に係る四半期包括利益	—	△15



(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第1四半期連結累計期間（自平成24年1月1日 至平成24年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	コンテンツ				
売上高					
外部顧客への売上高	139,741	12,338	152,080	—	152,080
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	139,741	12,338	152,080	—	152,080
セグメント損失 (△)	△125,698	△6,762	△132,460	△84,126	△216,587

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、DVD、配信許諾、物販事業、金融商品の売買、請求収納代行業務、その他を含んでおります。

2. セグメント損失の調整額△84,126千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間（自平成25年1月1日 至平成25年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	コンテンツ				
売上高					
外部顧客への売上高	71,883	6,198	78,082	—	78,082
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	71,883	6,198	78,082	—	78,082
セグメント損失 (△)	△175,006	△1,809	△176,816	△80,766	△257,582

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、DVD、配信許諾、物販事業、金融商品の売買、請求収納代行業務、その他を含んでおります。

2. セグメント損失の調整額△80,766千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。